

140.1

河川愛護モニタ一連絡受発信簿

発生・発見日時	令和 1年 8月 15日 14時 00分頃
河川名	天竜川
場所	左岸 (1.2 Km)
	右岸 (. Km)
内容	不法投棄



○不法投棄の看板(有)



河川愛護モニタ一連絡受発信簿

発生・発見日時 令和 / 年 8 月 15 日 14 時 20 分頃

河川名 天竜川

場所 (左岸) (2 . 0 Km)

右岸 (. Km)

内容 不法投棄

0 プラスチック、ビール





河川愛護モーター連絡受発信簿

発生・発見日時 令和 1年 8月 15日 14時 30分頃

河川名 天竜川

場所 (左岸) (2.0 Km)
(右岸) (. Km)

内容 史跡案内(福長飛行場跡)

○掛塚にあった
飛行場

史跡案内

福長飛行場

福長飛行場は、大正八年(一九一九年)福長飛行機研究所の付属飛行場として天竜川の河川敷に作られた。
福長凌雄、四郎、五郎の兄弟は浜名郡飯田村(現浜松市大塚町)の出身で、兄の凌雄は、羽田飛行学校に学び、その後千葉の伊藤音次郎飛行場に入門し、飛行技術を習得し、掛塚に飛行機研究所を創立した。格納庫内に工場があり大工、鍛冶の職人数人がいた。
名機天竜七号や、日本最初の六人乗り大型旅客機が作られた。飛行場には飛行訓練生が十四、五名がおり、一流のパイロットがこの飛行場より巣立ち活躍した。
飛行家として知られた兄弟は、関東大震災の時、掛塚飛行場より所沢間を飛び通信の確保に活躍した。飛行場の閉鎖後、格納庫は小学校(現竜洋西小学校)の雨天体操場として長い間使用された。

(平成十八年)

